

水疱瘡（みずぼうそう）について

10月から水疱瘡の予防接種が定期（無料）接種となりました。回数も2回接種へと変わりました。今回は水疱瘡ってよく聞くけどどんな病気なのか？なんで定期接種に変わったのか？その辺についてご説明します。

水疱瘡は水痘帯状疱疹ウイルスの感染によって発症します。このウイルス、読んで字のごとく、水痘（みずぼうそう）と帯状疱疹の原因になるウイルスです。感染力は極めて強く、インフルエンザの3~4倍。ウイルスを吸い込んで2週間ぐらいしたら熱とブツブツがでてきます。治療は抗ウイルス薬の内服となります。よく効く薬ですが、それでも毎年20人程度は水疱瘡で亡くなる人がいます。脳炎や肺炎等重篤な合併症も起こすウイルスです。

このウイルス、薬を使って治すことは出来ますが、一度感染すると神経節という場所に潜んで一生そこに居続けます。年をとって、体の力が弱くなったりすると、待ってましたとばかり神経節を飛び出して、再び体にブツブツを引き起こします。これが帯状疱疹という病気です。水疱瘡と違って熱はさほど認めませんが、かなり痛みを伴います。帯状疱疹後神経痛と呼ばれる後遺症を残すほど痛みのある病気です。

この水疱瘡や帯状疱疹を予防するのが水痘ワクチンになります。ワクチンの接種効果はかなり高く、1回の接種でも90%（接種した10人中9人は罹らない）近い防御効果があります。今回、定期接種の導入で2回接種が標準となりました。初回接種から半年から1年後に2回目の接種を行います。このやり方で100%近い防御効果が期待されます。つまり、水疱瘡になる前にワクチンを2回済ませておくと、もしウイルスが侵入しても速やかに排除できますので、ウイルスが神経節まで到達できなくなり、将来帯状疱疹が発症するリスクも無視できるくらい小さくしてくれます。

水痘ワクチンは日本で開発されたワクチンです。効果も確実で、安全性も高く、全世界で使用されています。接種率が90%（現在は50%）を越えると水疱瘡の患者様はほとんどいなくなると思われ、ひいては帯状疱疹の患者様も激減すると思われます。このため接種率向上を期待して今回定期接種となりました。インフルエンザワクチンとの同時接種も可能です、接種対象のお子さまはかかりつけの病院でしっかり予防接種を受けましょう。